



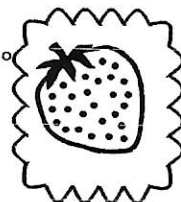
令和3年

3月22日(月)

【No. 10】

先週の金曜日、ひばりが丘中学校では第60回『卒業式』が行われました。みなさんが木曜日に、一生懸命に準備をしてきれいに整えた会場で、3年生の先輩たちは本当に素晴らしい姿勢で、中学校生活の最後の1ページを締めくくりました。1年生のみんなにも、あの姿をぜひ見せたかったです。そこには、みなさんに目標としてほしい姿がありました…。2年後、みなさんがいよいよこの中学校を卒業するとき、果たしてどんな思いを胸に秘めてこの一日に臨むのか…、その姿を想像してしまいました。素晴らしい『卒業式』は、その日一日だけ頑張っても作ることはできません。その学年のみんなが、仲間とどのような3年間を送ってきたかで決まってくるのです…。みなさんも、きっと素敵な『卒業式』を創り上げられると期待しています。まずは、1年生としての最後の1週間、残りの日々をみんなで大切に送っていきましょう！

さて、1年生のみなさんにとっても、この1年間はいろいろな意味で、本当に激動の年だったと思います。そんな1年間を振り返って、作文を書いてもらいました。それでは、仲間の作文を紹介しましょう！



『一年生を終えて』

この一年生を終えて思ったことは四つあります。

一つ目は、行事が少なかったことです。新型コロナウイルスのせいで、仕方がないことではあるが、やはり心残りがあります。三年の修学旅行は絶対に行きたいです。

二つ目は、1年A組は良いクラスということです。別の学校からの人でもフレンドリーに接し、すぐに打ち解け合えました。数少ない行事にも全力で取り組み、ベストを尽くしました。自分と合わない人もいますが、1年A組は良いクラスだと思います。

三つ目は、自分の考えが一年を通して変わったことです。ぼくは、後期にボランティア委員会に入りました。この委員会に入った理由は、「とりあえず委員会に入ろう」という考えで、余ったのがこの委員会でした。ですが、活動しているうちに、人を助けるという行動に興味をもち始めました。ボランティア委員会は自分を変えてくれた、自分に最も合っている委員会だと思いました。

四つめは、この一年があっという間に終わる気がしたことです。6月から始まったということもあるが、小学六年生の一年より短く感じました。あっという間にテストも終わり、

二年生まであとわずか。このわずかな時間を大切に、二年生で良いスタートをきれるように努力しようと思いました。

この一年間、行事も少なくあっという間に終わった一年間だと思っていたが、良いクラスで過ごせて、自分を変えてくれたこの一年はきっと忘れないです。

A 糸目

●「この1年間、何事にも前向きな姿勢で取り組んできたからこそ、そのような気持ちになれたのでしょう。4月から始まる、次の1年間も楽しみです。期待しています！」

『私の三大ニュース』

第三位「球技大会のためにバレーボールを練習した！！」

球技大会のために、今まで全くやることが無かったバレーボールをクラスで練習しました。そのため、昼休みに外に出ることが多くなりました。また、最初は全く打てなかったボールも、少しは打てるようになってきてとても楽しいです。

第二位「部活が休止になったことによって自主練を始めた！！」

緊急事態宣言がでたことによって部活が休止になり、毎日のように吹いていた楽器を吹くことが出来なくなりました。楽器は吹かないとどんどん劣化していくので、家で指の練習をしたり、スタジオを借りて練習したりして、部活をやっていた時と変わらないように心がけました。部活が始まるのが楽しみです。

第一位「ギターを弾けるようになった！！」

音楽の授業でギターをやり、とても楽しくて家でもよく弾くようになりました。今はまだ、簡単な曲しか弾くことができないけど、もっと練習してうまくなりたいです。

B 糸目

●「この1年間で三大ニュースにまとめましたね。苦しい状況でも、自分で楽しみを見つけて、工夫している姿が素晴らしいですね。早く思いきり活動ができるといいですね」

『支えてくれた先輩方』

この一年間で、一番心に残ったことは部活動です。

中学校入学時に、私は色々な不安を抱えていましたが、同時に一番楽しみだったものは部活動です。初めは分からなかったことや、なかなかじめないこともありました。しかし、それを楽しさに変えていってくれた先輩方には、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、三年生とは短い間でしたが、その中でも上達のポイントを教えてくれたり、積極的に話しかけてくれたりしたことが印象に残っています。

三年生が引退してからは、先輩は二年生一人のみとなってしまいました。その分、試合はなかなか勝てず、落ち込んでしまうことも多かったです。しかし、今思えばそれは貴重な経験でした。二年生が少ない分、自分たちが試合に出られるようになり、試合に出られたからこそその反省や、二年生とのチームワークの向上がありました。また、一年生も練習の中心に立って、互いに高め合うこともできました。

一年生たちが、二年生に伝えて一緒に成長しようという気持ちをもっていても、やはり一人で後輩をまとめていくことは難しいことだと思います。私たち一年生はもうすぐ二年生になり、後輩も入ってきます。そのときに三年生に任せるのではなく、私たちが引っ張っていきたいと思います。

来年も制限がかかっての部活など、不安に思うことはたくさんあるかもしれませんが、しかし、それに私たちが気を落としてはいけないのです。今年度、私たちを後ろから支え、不安を楽しさに変えてくれた三年生のように、入ってくる一年生をそっと支えていきたいです。また、来年度も充実した楽しい部活動が再開することを、楽しみにしています。

C 糸目

- 「この一年間、部活動も思うような活動ができなくて、残念な思いをした人も多かったでしょう。それでも下を向かず、前向きな姿勢で次を見据えていて素晴らしいですね！」

『一年生をふり返って』

私はこの一年間、毎日あいさつを心がけて生活を送ることができました。また、小学校では行ってこなかった、一分前着席も意識することができました。

毎日あいさつすることで、お互いに気持ちが良いし、元気になると思います。なので、毎日登下校の時、学校の先生達などに自分から積極的にあいさつをすることができました。あまり人と関わりにくい時期ですが、なおさらコミュニケーションが大事になると思うので、これからも続けていきたいと思いました。

次の授業の休み時間では、授業の準備をしっかりと行い、一分前着席をすることができました。あらかじめ次の授業の準備をしておくことで、急がず余裕をもって授業に行くことができました。

私は二年生になったら、一年生たちが入ってきて先輩になります。先輩として、一年生のお手本になれるように、もう一度自分の行動を見直していきたいなと思います。

D 糸目

- 「あいさつ、時間のけじめ…、どちらも中学生として大切にしてほしいとても大切なことですね。その姿を後輩たちに見せることで、伝わるものがきっとありますよ！」